

## 千葉先生と過ごした時間

北 澤 隆 明

(独立行政法人 国立病院機構)

Great Time with Prof. Jun'nosuke Chiba

Takaaki KITAZAWA

私がドクターコースに入学した9年前、千葉先生が広島大学に赴任され、それからの3年間私の指導教員として親身にご指導いただきました。

先生は西洋の音楽にも日本の音楽にも深く精通されており、先生との出会いは私の「音楽」に対する認識に幅広い見方を与えてくださったように思います。宮城道雄に関する文献を講読することを通じて、音楽を「文化」として捉えていく考え方のヒントを学ばせていただきました。

先生とのゼミは「対話」のようなひとときで、振り返れば、3年間でいちばん充実した時間だったように思います。当時の私はけっして勤勉な学生ではありませんでした。教育学部で音楽を研究することに対する迷いもあり、いろいろな本を読んでは一向にまとまらない考えを先生に話し続けるという3年間を送りました。けれども先生はいつ何時でも私の話に耳を傾けてくださり、私の研究をあたたく見守り続けてくださいました。

私は都合あってドクターコースを中退し、一度は研究の道を諦めかけていました。ところが3年前、国立病院の重症心身障害児病棟に勤務することとなり、音楽を通じてこどもたちの治療教育の支援をするようになりました。人工呼吸器や気管カニューレを装着し、言葉や態度による意思表示もむずかしいこどもたち。そんな重症児と毎日を過ごしていると、「この子たちにとっての『音楽』とは何か？」という問いに自然と行き着くこととなります。今年度は日々のこどもたちとの関わりを研究論文としてまとめる仕事にも従事してきました。

ふたたび論文を書き始めて、大学院時代に学んだことがこれほどありがたいと感じたことはありません。学生時代、「音楽」について考え、迷い続けた時間はけっして無駄な時間ではなかったのだ。千葉先生があたたかい眼差しで未熟な私をうけとめ、見守ってくださったことが、いまの私の原点になっているのだということを、はっきりと自覚しています。これからいっそう研鑽して、重症心身障害児のための新しい療育プログラムを開発していくという目標を抱くこともできました。

大学のドクターコースは自分自身で考え、新しい領域を開拓していくことが許されている稀少な場であると思います。私に許されたその時間を、千葉先生とともに過ごせたことは、私の人生にとってほんとうに幸福な体験であったと実感しております。

最後になりましたが、千葉先生のますますのご発展をお祈り申し上げます。